

2013/07/30(火)15:10

授業コード	81R11
授業科目名	ビジネス研究プロジェクトI(1)(前)
担当者名	伊藤健顕(イトウ タケアキ)
単位数	6
開講期別	2013年度 前期
曜日・時限	月曜4限 月曜5限 月曜6限
特記事項	
オフィスアワー	
講義の内容	近年、電気機器メーカーに代表される日本企業の低迷・停滞が指摘されています。では、本当に日本企業は停滞しているのか、停滞しているのならばその要因は何なのか、という点を財務会計やコーポレート・ファイナンスの視点から分析を行い明らかにすることが本プロジェクトの目的です。基本的には有価証券報告書や企業のIR情報を用いた分析を行います。“グローバル”と表題にあるように、日本企業だけではなく欧米の企業との比較分析を行います。例:アップル vs 日本の電気機器メーカー、キャタピラー vs コマツ、キャリア vs ダイキン、グーグル vs 日本のIT企業 etc.
到達目標	ある業界・企業を対象とした企業分析がスムーズに行えるようになること。
講義方法	基本的にグループワークで進めます。3～5名のグループで1つの業界を担当し、毎回成果を報告してもらいます。取り扱う企業・テーマについては、受講生と相談しながら決定し、講義のすすめ方についても臨機応変に対応します。
準備学習	財務諸表の読み方やコーポレート・ファイナンスで用いられるファンダメンタル分析、マルチプル分析、DCF等については一通り学習しておくこと。
成績評価	毎回の発表を中心に、議論への積極参加等を総合的に考慮して評価します。
欠席基準	授業実施回数の3分の1(端数は切り捨て)以上を欠席した場合は、単位を修得することができません。(「欠席」評価となります。)
講義構成	プロジェクトの人数にもよりますが、基本的には1グループで3,40分の発表を毎回行ってもらい、他のグループと議論をしながら進めます。まずは大きな問題意識からいくつかの企業を分析していき、論点を明らかにし、さらに分析を深めていきます。
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	必修ではありませんが、興味のある人は以下の図書を読んでおくこと(難易度は高めなので参考程度に)。 伊藤邦雄『ゼミナール現代会計入門(第9版)』日本経済新聞出版社、2012年。 S. H. ペンマン『財務諸表分析と証券評価』白桃書房、2005年。
講義関連事項	
担当者から一言	教員側から一方的にレクチャーをするのではなく、学生が主体となった授業を目指したいと思っています。
その他	
ホームページタイトル	
URL	